



発行者
文京学院大学
女子中学校
水上 茂

文女祭を終えて〜学園祭実行委員のチーフとして

受験生案内プロジェクトチーフ

三年菊組 伊藤 朱里

私たち受験生プロジェクトは、学園祭当日までに何回も集まりました。顔合わせを済ませた後は、下級生に校舎案内の道順やポイントを伝達し、練習をすることから始めました。3年生と1年生がペアになって、一カ所、一カ所です。どのようかを説明すればよいかなど、丁寧に教えました。1年生の中には1、2回したこともある子もいました。ほとんどの子は初めてで、教えるのに苦戦しました。自分自身がわかっていても、他人にわかりやすく教えたり、伝えたりするのは、難しいことなのだと思感しました。学園祭当日は、不安と緊張でいっぱいになりました。受験生のみなさんを個別相談の場所までお連れしたり、制服試着のコーナーまでご案内したり、もちろん校舎案内もしました。大きなトラブルもなく終わったときは、ホッとしてました。

受験生案内の仕事は、一人一人が責任を持ってやり遂げなければいけない仕事です。だからこそ、私はこの仕事を誇りに思っています。

学校説明会のお手伝いで、受験生を案内する機会はまだまだ続くと思うので、これからも受験生のみなさんに喜んで頂けるように頑張ります。

最高に楽しめた学園祭

体育館プロジェクトチーフ

三年菊組 吉川 花音

私は、今年の文女祭で斎藤明さんと一緒に体育館プロジェクトを担当しました。私がチーフ、斎藤さんが副チーフを務めました。文女祭当日に、部活動発表を運営するのが主な仕事です。

最初に、去年の原稿を参考にして、当日の台本作りを行いました。時間配分や、各部活動を紹介する文章を考えることはとても大変でした。また、同時に、出場する部活動向けの注意事項もまとめました。斎藤さんと先生と相談して何度も書き直して仕上げました。

しかし、当日は予期せぬトラブルが起きてしまいました。突然のことだったので、驚きましたが、なんとか対応することが出来ました。途中、発表をみた感想や、文女祭で発表がある団体の宣伝する時間を急遽いれたことで、時間通りに進行することも出来ました。

終わったときは、心からホッとしました。終了後、たくさんの先生方や友達から、「すごくよかったです」「楽しかった」という言葉を頂いて、「やってよかった」と心から思いました。準備はとても大変で、すこし面倒くさく感じるときもありましたが、こんなにたくさんの

人に喜んでもらったことが大きな達成感に繋がったので。今回は、文女祭初日だけのプロジェクトでしたが、文女祭実行委員という立場で、文女祭を盛り上げることが出来たのではないかと思います。中学校生活最後の文女祭、とても楽しめました。

心に残ったこと

受付プロジェクトチーフ

三年栗組 平田 結子

私は九月三十日、十月一日に行われた文女祭で実行委員を務めました。そして、受付プロジェクトのチーフを任されたのです。

受付プロジェクトの仕事は、前日に受付を設営することから始まりました。開催期間中は、来場者の方々にリストバンドを付け、パンフレットを配布しました。

私が最も苦労したのは、リストバンドを付けるときに「一度、外してしまおうと再入場が出来なくなりますが、お気を付けてください」という時です。使い慣れない言葉のせいか、言いづらくて、何度も噛んでしまいそうになりました。よく注意して言わなくてはいけませんでした。驚いたこともあります。

卒業して、何年も過ぎていくのに、足を運んでくださる卒業生の方が多いです。卒業して何年も経っているのに、文京学院で過ごした時間が心の中に強く、つよく残っているからなのだと思います。私も今までお世話になった方や共に過ごした仲間、これからお世話になる方や共に過ごす仲間との思い出を大切にしたいと、改めて思いました。

たった2日間でしたが、たくさんの方が心に残った2日間となりました。

校外学習に行つて 都電の旅

一年栗組 三十番 山口 美咲

私は、十月十一日に学校の校外学習へ行きました。中学一年生は都電の旅へ出かけました。都電荒川線に乗り、私たちが生活する東京の街並みを、普段とは別の視点から見る一日です。そこで私たちの班では、路面電車「都電荒川線」が都内で唯一存在し続ける理由を探る為に、『使い勝手の良さを、乗客の皆さんに聞いてみよう』をテーマに今回の都電の旅の計画を立てました。また個人課題として、『都電荒川線の生き残り戦略』『バリアフリー』『都電荒川線のグロブアル』を探ってきました。

まず最初に、班のテーマ内容についてです。私たちの班では、「いつ、どんな時に利用するか」「電車の本数や料金についてどう思っているのか」「停留所のいい所について」などを親子連れからお年寄りの方までインタビューしてきました。親子づれの方で多かったのは、電車から見える風景が子供も大人も楽しめているということ。お年寄りの方では、下町っぽく、昔の懐かしさを感じるという意見が多かったです。また、親子連れとお年寄りの方の意見をまと

めると、都心までの乗り換えをほとんどしないで行かれることや、停留所に階段がないこと、どの区間も同じ料金で乗りやすいなどという声が多かったです。次に個人課題についてです。一つ目は、生き残り戦略です。私は街中を通っているから、気軽に歩いて乗りやすいというふうな考えました。二つ目は、バリアフリーです。バリアフリーでは、お年寄りの方や親子づれにやさしい、停留場に階段がないということをインタビューの中から知ることができました。三つ目はグロブアルです。この課題は難しく、答えを見つけないことができませんでした。直接関係はないのですが、私は班で移動しながら、必ず、交番が停留場の近くにあるということに気が付きました。また、どの交番も停留場から約三分五分でつくことも分かりました。

私はこの校外学習で学んだことがあります。それは、普段とは別の視点で見つめることによって、普段気付かないことに気づくということです。今回の校外学習を生かして今後の生活を見直していきたいです。



横浜校外学習「そうだ、横浜へ行こう」

二年栗組 鈴木 日和

どこかで聞いたキャッチコピーを掲げ、クラスの友人六人と、今日は横浜の町をめぐる。天気は快晴とはいえないが、雨が降らないほどの曇り。十月というのに少し蒸し暑い日だった。

まず、「帆船日本丸」と「みなとみらい博物館」を班ごとに見学。予定していた時間を遥に越えて魅入ってしまうほどの迫力があつた。日本丸では、元船員の方が、たっぷりお話をしてくださつた。みなとみらい博物館は、横浜の歴史をたくさん知ることができた。

さあ、ここから自由行動だ。どこに行こうか、事前に用意していた計画では、このままいくと少し時間オーバー気味だ。ただ、行つてみたいところでもあつたため少し急いで目的地へ。そこは、横浜中華街開港の近くにある、「横浜人形の家」。ここは、あらゆる人形がおいてあつて、とても可愛らしかった。お昼は、中華街で肉まんを一つ。なかなかあんにたどり着かない。そして、ワールドポーターズというデパートのようなところに行つた。すると、やはり欲望には勝てない。可愛いお店へ寄り道。見学というよりショッピングのようになってしまった。だが、そこは二年生になった身。けじめはつけようということであらためてワールドポーターズを見学。

こうして、横浜を少し旅した気分になり、いつもと違う風景、人々に接し、集合時間に桜木町駅前広場に到着した。まだまだ巡り足りないが、また来ようと思った場所だつた。



鎌倉校外学習

三年桃組 山口 彩楓

私たち中学三年生は、鎌倉に校外学習に行きました。雨が続いていましたが、その日は信じられないくらいいいお天気で、暑いくらいでした。

校外学習は、毎年、田覚寺での座禅体験から始まります。最初は、背中を叩く板の名前すら知りませんでした。しかし、お寺の住職さんの説明で、「この板は「警策」という名前であることや、この「警策」が江戸時代からあることなど、授業では習わなかったことも知ることができました。「警策」でたたかれるのはとても痛いだろうと思つていましたが、思つていたよりも痛くありませんでした。取って叩かれる人はあまりいないだろうと思つていましたが、結構たくさんの方が「警策」を頂いていたので驚きました。普段はできない貴重な体験です。

その後、私たちは建長寺、鶴岡八幡宮、小町通を回りました。建長寺では、光泉というテレビでも紹介された店のいなり寿司を食べました。甘い醤油の味が口の中に広がり、とても美味しかったです。鶴岡八幡宮では、人気の観光地というだけあって、小学生やたくさんのお客さんがいました。私たちが大仏様にお参りしました。最後は、小町通りを通り、鎌倉駅に向かいました。小町通りには、おみやげ屋さん、スイーツなどのたくさんのお店が並んでいました。

私は、今回の校外学習を通して、授業の話聞くだけでなく、歴史の舞台に行き、体験することで、その時代のことをより深く知ることができたと思います。



